FAITH

渡辺　政直

元日本聖公会首座司教。1986年に退職後、「再度、現場の第一歩に戻り、人々への奉仕活動の道を歩みたい」という希望のもと、1987年7月、夫人とともにタンザニアのダルエスサラームに渡る。当地において、貧しい人々や、同港にある「THE MISSION TO SEAMEN」という船員のための休養施設で奉仕活動を行う傍ら、タンザニア各地の英国教会（THE ANGLICAN CHURCH）でも奉仕活動を続けている。夫人は看護婦の資格を生かし、医療奉仕活動をしている。

アフリカ便り

タンザニアの宗教事情

タンザニア共和国の総面積はおよそ95万平方キロで日本の約25倍の広さである。人口は1990年の人口調査で2,635万人と発表された。

アフリカ南北に共通するバンツー族だが、タンザニア全土に散在する部族数は120～130とも言われている。もともと文字のない部族語が用いられたが、現在はスワヒリ語が公用語で英語も併用されている。

タンザニア人に古くから共通して見られる信仰は祖先崇拝である。部族の安全、繁栄そして団結に欠くことのできないものは祖先の霊による守りである。従って部族の弱体化につながる病気、死、災害、紛争、飢餓等に対して、まず祖霊の加護を願う。祖霊をおろそかにすると必ず災から守って貰えぬ。この信仰はタンザニア人の根底に今も生きているし、その仲介者の役割を果す呪術者、巫女の存在は今も内陸部の村落に大きな影響を与えている。このような土着宗教に生きる人は総人口の20％、およそ530万と言われている。

回教徒（ムスリム）は7、8世紀以来、アラビア半島、印度よりダウ船で来航したアラブ人、印度人が東アフリカ沿岸部やザンジバル島、ペンバ島、マフィア島に定住することで教勢が拡まっていった。信徒数は総人口の35％、およそ900万人と言われる。

一方、15世紀以来、西欧より渡来した人々と共にキリスト教宣教師達がタンザニア内陸部に拡散し、布教した。教会を建てたばかりでなく学校、病院、職業訓練所を設置し、クリスチャンの教師、医師、看護婦、各種技能者が住民の福祉に広く貢献した。信徒数はおよそ1,000万人で、総人口の38％を占める。そのうち、カトリックが500万人、ルーテル教会、英国国教会（アングリカン）あわせて400万人、ペンテコステ教会、アセンブリ教会、その他、独立教会の信徒が100万人と推定されている。

残る総人口の7％の人々は印度、パキスタンより移住したヒンズー教徒、又は、ゾロアスター教徒、他に少数の仏教徒を挙げることが出来る。

他方、都市化現象がこの国にも見られ、人口が大都市、特にダルエスサラームに集中し、脱部族化から無神論者とか懐疑論者が増えているとも言われる。

しかし総体的に言って、タンザニアは、信仰心の厚い人々からなっていると言える。初代大統領ニエレレが提唱した「ウジヤマ（共存）」の精神、そして信仰の自由と政教分離の国是の中でそれぞれの宗教は平和に共存している。ニエレレはクリスチャン、現大統領ムイネは回教徒、首相マセセレはクリスチャン、その他大臣、閣僚、国会議員、一般市民、皆それぞれ信仰する宗教をはばかることなく表明できる。タンザニアは恵まれた国と言えよう。

金曜日の夕べになると回教徒の礼拝堂（モスク）は信徒で一杯になるし、日曜日になると教会はクリスチャンで満ちあふれ、礼拝堂の外の庭にまであふれる。タンザニアは世界十大貧国のひとつに数えられる国とは申せ、信仰の故に豊かさを証している国とは言えまいか。